

第32回横浜市都市美対策審議会政策検討部会

次 第

日 時 令和6年1月26日（金） 10時から11時30分まで

会 場 一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム
横浜市西区みなとみらい2丁目3番5号
クイーンズスクエア クイーンモール3階

【次 第】

1 開 会

2 議 題

（1）新たな都市デザインのあり方検討について（審議）

3 閉 会

【横浜市都市美対策審議会 政策検討部会 名簿】

		氏 名	現 職 等
1	部会長	国吉 直行	横浜市立大学客員教授（都市デザイン）
2	委員	大西 晴之	横浜商工会議所 議員
3	〃	鴨下 香苗	公募市民委員
4	〃	真田 純子	東京工業大学環境・社会理工学院教授（景観）
5	〃	中島 直人	東京大学大学院工学系研究科教授（都市デザイン）
6	〃	三輪 律江	横浜市立大学国際教養学部教授（建築・都市計画）
7	〃	山家 京子	神奈川大学建築学部教授（都市計画）

第31回横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録	
議 題	議事1 新たな都市デザインのあり方検討について（審議） 議事2 創造的イルミネーション事業令和4年度のイベント実施報告について（報告） 議事3 創造的イルミネーション事業令和5年度のイベント開催について（報告）
日 時	令和5年9月27日（水）午前10時から午前11時50分まで
開催場所	一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム 横浜市西区みなとみらい2丁目3番5号 クイーンズスクエア クイーンモール3階
出席委員 （敬称略）	現地参加：国吉直行、大西晴之、鴨下香苗、三輪律江、山家京子 リモート参加：真田純子
欠席委員 （敬称略）	中島直人
出席した 幹事・書記	書 記：黒田 崇（都市整備局企画部長） 光田麻乃（都市整備局企画部都市デザイン室長） 石井 聡（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
関係者	【議事1】 関係局：土師朝子（都市整備局企画部都市デザイン室担当係長） 桂 有生（都市整備局企画部都市デザイン室デザイン調整担当係長） 【議事2・3】 関係局：塩月恵里（にぎわいスポーツ文化局文化芸術創造都市推進部創造都市推進課創造まちづくり担当係長） 阪井啓介（にぎわいスポーツ文化局文化芸術創造都市推進部創造都市推進課）
開催形態	公開（議事3については非公開）（傍聴者：0人）
決定事項	【議事1】 今回の意見を踏まえ、引き続き検討を進めること。
議 事	1 開 会 （国吉部会長） それでは、まず、会議の公開について、事務局から説明をお願いいたします。 （光田書記） 本日の部会の議事（3）につきましては、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第7条第2項第3号ア「法人その他の団体に関する情報であって、公にすることにより、当該法人等の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの」に該当することから、非公開としたいと思っております。部会長、いかがでしょうか。 （国吉部会長） 事務局から非公開の提案がありました。議事（3）については非公開ということにしますが、いかがでしょうか。 （異議なし） （国吉部会長） よろしいですか。それでは、議事に入ります。 2 議 題 （1）新たな都市デザインのあり方検討について（審議） （国吉部会長） 議事（1）「新たな都市デザインのあり方検討について（審議）」でございます。事務局から説明をお願いいたします。 （光田書記） 議事（1）は、新たな都市デザインのあり方検討についてです。9月に親会、審議会のほうでご報告しましたとおり、今後、新しい都市デザインのあり方検討の一部を都市計画マスタープランの全体構想の改定に盛り込むことを予定しています。本日は、前回7月の政策検討部会の議論を踏まえた上での新たな都市デザインの理念と戦略の考え方をご説明し、ご意見を頂くためお諮りするものです。詳細につきましては、担当課である都市デザイン室よりご説明させていただきます。 議事1について、担当課より説明を行った。

(国吉部会長)

ありがとうございました。最後のところにスケジュールが出ていますが、本日の部会、その後3月の親会までの間に政策検討部会が再度開かれるということで、そういうことを考えると、今日は割とフランクに、ランダムにいろいろ議論してもいいかなと思っております。初めての審議になる委員の方が大半ですので、少し掘り下げた質問とか、表現についてよく理解できない、もう少しこの辺を説明してほしいとか、そういったこともあれば、どういった角度からでも結構ですので、ご質問あるいはご意見を頂ければと思います。その前に、欠席委員から何かご意見等がございますでしょうか。

(光田書記)

欠席の中島委員につきましては特段ご意見はありませんが、前回7月の政策検討部会にご出席いただいていない委員の方々につきましては、事前に本日の資料をご説明しております。その際に頂いたご意見を踏まえて、本日の資料のワーディングですとか、最終的に調整したものを本日おつくりして出しております。以上です。

(国吉部会長)

了解いたしました。それでは、どなたからでも結構ですが、ご意見とご質問を頂ければと思います。鴨下さん、いかがでしょうか。

(鴨下委員)

先ほど新たな都市デザインの7つの取組姿勢ということでご説明いただいたのですが、7番の美しい、楽しいといった人の心を動かす都市をつくるというのが到達目的とおっしゃっていて、この取組姿勢については重要性に濃淡があるものなのかということをご質問したいです。

あと、私は建築については無知なのですが、理念とかそういうものが抽象的過ぎてしまうと、掲げるだけで終わってしまうというところがあると思います。経営とかですと、それを行動規範に落とし込むことで理念をみんなで達成していくことができるというのが、団体が目標を達成するために必要だと言われていると思いますが、その中で具体例をもうちょっと示したほうがいいのかなと思いました。新しい取組なので今まで成功例がないということだったら仕方ないのかもしれませんが、こういうものが取組の成功例というのを具体的に示すことによって、ああ、こういうことなんだなというのが分かるのかなと思いました。

それと、私は今、子育てをしていて1歳と3歳の子供がいますが、福祉や暮らしやすさというところで、具体的にになってしまいますけれども、エレベーターがすごく狭いです。今、コロナの後、インバウンドも増えて、スーツケースを持っている方もたくさんいる中で、みなとみらい線のみなとみらい駅なんてすごい観光地なのに、ベビーカー2台でぎりぎりという感じです。休日になると数珠つなぎで並んでいる様子が見て取れて、観光をこれでやっていくとか、暮らしやすさとか、子育て世代を応援したいというのが全然見て取れないなと思っています。そういうところは、例えば具体的にこれぐらいの規模の建築をする場合には定員15名ぐらいのエレベーターを置かなければいけないとか、営業の自由と憲法の関係とか制約をつけるのはいろいろあると思いますが、具体的に落とし込んで取り組んでいくことが必要なのではないかと思いました。以上です。

(国吉部会長)

2つ、意見と質問がありました。美しい、楽しいというのは抽象的なのでもう少し具体的に言ったほうがいいのではないかということ、あるいは、既にこういう取組でこれまでも実践してきてやれているのであればそういう説明でもいいので、その辺はちょっと初めてなのでこれの意図すること。それから、2つ目は具体的に福祉の視点から、エレベーターなどについて、暮らしやすさとか、暮らしに寄り添うみたいなニュアンスとか、新たな社会背景の4番に対応したようなことで、そういうメッセージをここではどのように出せるかということだと思います。ここに書けということではないと思いますが、その辺にも応えてほしいというご意見だったように思いますので、答えられる範囲でお答えください。

(土師係長)

理念は、確におっしゃるようにこのワンフレーズなので、抽象的だというご指摘かと思いますが、今回、この理念を実現するために、具体的にどういう姿勢で臨むかというのを、少しブレークダウンしたものを7つの取組姿勢ということでおつくりしています。さらにもっと具体的に示したときに、今回は新たな都市デザインなので、これから取り組むべきもののイメージを挙げていますが、伝えるためにはこれまでやってきた、例えばこんなもの、実現してきたものというのを併せて説明したほうが分かりよいのではないかというご指摘でしょうか。

(国吉部会長)

2つ目のエレベーターは。

(土師係長)

それぞれに基準があって、どれぐらいのかごの大きさでというのはあるものの、街全体としてホスピタリティを持ってどのように人をおもてなしするのかというのは、私たち行政もそうですが、鉄道事業者さんとかいろいろな民間の企業さんも含めてどう横つなぎにしていけるのか、今後考えていけない問題かと思えます。

(国吉部会長)

私も長く関わってきた人間から言いますと、抽象的という言葉がありますが、具体的な成果はたくさんあるわけです。例えば、歴史的なものを残している関内地区や赤レンガ倉庫といったものと、みなとみらいの高層を対比的に見せることによって、美しい、人の心を動かすとか、そういうものをつくってきたとか、線路を残してプロムナードにして汽船道にするとか、郊外部でもプロムナードを水辺につくったり、そういう事例はあるわけです。あまり具体的に書くとそれに引きずられてしまうので、横浜だけではなくて日本のいろいろなものを幾つかお見せするけれども、次の時代の新たなものをつくり上げていこうという趣旨で、こういうところはあまり具体的に書かないほうがいいところもあるから、事例はどこかでたくさん紹介していくのではないかと。

それから、福祉みたいな話で、どこまで都市デザインとして取り組むのかということがありますが、今おっしゃったような暮らしやすい、暮らしに寄り添うという視点から、郊外区とかも含めて若い方々や高齢者、子育て中の方々に寄り添うということで、何かメッセージを出せるような、そういう手法を盛り込む。だから、これを全部、都市デザインで取り組むというよりも、総合的な横浜市の行政や地域のまちづくり、民間のまちづくりを通じて、そういうところへのアラートではないですがメッセージを出して、こんなこともたくさん市民から期待されていますというものを出すような、そういうやり方もあるのかもしれないなと思いました。ここに具体的にどう書くかは別として、そういう取組なんかも何か考えていったらいいなと。各局、地域へのメッセージとしてあるかなという感じはちょっといたしました。

ほかの委員、いかがでしょうか。山家委員。

(山家委員)

6ページの部分になりますが、私は、理念は以前のものを継承していくというのはいいと思います。最近、「人間的な」「人間中心の」という言葉を都市計画の分野ではよく使ったりしますが、いいのではないかと思います。その解釈のこれが吹き出しなので、それをどこまで掲載するか見せていくかというのはよく分からないところではありますが、単一ではなく多様化している個人の価値観というのはいいなと思いつつも、例えばSDGs的なというか、地球環境とかを考えたときのヒューマニティというのは外すべきではないだろうと。あまり個人、個人と言わなくても、人間的なところで包括的に、個人もそうだし、トータルに人類の一員としてみたいなのも入っているのかなと感じました。

郊外地について、同じく吹き出し部分で書かれているところで、確かに郊外地というのは今、割と急いでというか、頑張っておくべき対象だと思いつつも、先ほど委員会の前に雑談でお話したのですが、割と都心に近い既成市街地、例えば神奈川大のある六角橋とか藤棚とかは、コロナ以降、今回の都市デザインの中でもキーワードになっている生活圏の充実、15分都市とか、20分近隣ネイバーフッドとかそういうのがあるわけですが、その実現を考えたときに、商店街もあつたり人も住んでいたりというような、そういった既成市街地というのは結構面白い展開ができるのではないかと。その一方で、防災的に脆弱な部分があつたりするので、その辺も、実は今まで都心が都市デザインの中心で、今回は郊外がターゲットというよりも、もうちょっと幅広く見てもいいのかなと思つきました。

7つの取組み姿勢2番の「個々人のあり方」という言葉ですが、多分、吹き出しの多様化している人、あるいはパーソナルという言葉を引き継いでいるのかなと思います。事前説明のときに、インクルーシブ、包摂的という言葉を入れなくていいのですかという話を申し上げたのですが、そう考えたときに、「個々人のあり方」という表現よりも、説明文の中に「自分らしくある暮らし」という言葉が出てきますけれども、その人らしくある暮らしというふうの説明すると、個々人のあり方の暮らしにもつながるし、その人らしくある暮らしができる都市ということになると、包摂的な、誰も取りこぼさない都市デザインのあり方というふうにも言及できるのかなと思うので、そこは少し表現を検討いただけると、より広く含む表現になっていくのかなと思つきました。以上です。

(国吉部会長)

ありがとうございました。ご意見として非常に貴重だと思いました。大西委員。

(大西委員)

私は今、説明を受けて、非常によくまとまっているなと感じましたが、あえて個人的な意見では、理念だとか意義だとか、そういうのも大切だけれども、最終的には安全性ということではないのかなと。こういうものを打ち出すときに、横浜の魅力というのは何かといういろいろなあると思いますが、安全なしの魅力はあり得ないと思うのです。ですから、安全性というようなこと。それから、ニーズというものも、地球の気候にしても、少子高齢化の人口の年齢層であるとか、人口減少であるとか、間もなく横浜で開催される花博や何かでも、最近、植物の力という、今まで何にどう力があるかということはあまり解明されていなかったようですが、そういうことも随分言われるようになって、ただ緑にしようといっても、何を植えてもいいわけではないということがこれからは出てくると思います。それから、幾らここで最善の策を考えても、時代の変化とともにコロナが出てきたり、何が変化してくるか分からない。そういうものを全て想定したようなものをつくるのは無理ですから、変化が出たときの対応力というか、変化に対応できるかということが非常に大きな要素ではないかと。今、一つお話が出たエレベーターの大きさとかそういうことも、これから高齢者などの車いすの問題とかいろいろ出てくると思いますが、口で言うほど、どうやって変化が出てきたときに対応するのかというと、経済性とは反してしまうけれども、全てのことにある程度ゆとりを持った部分というか、考え方としてゆとりということも、対応力を上げるには大切なことではないかというようなことを感じました。

(国吉部会長)

貴重なご意見ありがとうございます。ゆとりを持ったということで言うと、広場づくりみたいなことも、コミュニケーションを活発にするということで、割と今、活発に全国的に展開されています。一方で、いざというときに対応するゆとりのある空間といいますか、そういった安全へのクッションとしての意義もありますよね。

(大西委員)

例えば1つの例としてシェルターみたいな考え方というもの。

(国吉部会長)

そういうものが多様なことに使えるといいますか、そういう空間づくりみたいな話はあるのかもしれないですね。三輪委員、いかがでしょうか。

(三輪委員)

まず、前回、私はオブザーバーで参加させていただいたので、7つの取組姿勢に整理されたこのあたりは大分すっきりしたかなと思っております。先ほどから話している関係で言いますと、これからの新たな都市デザインを、具体的に誰に向けて、誰がこれを引き取ってというか、自分事にしていくかということ、書き込む必要はないかもしれませんが、多分、事務局はお持ちだと思うのですが、実際に動かすときには行政がとか、事業者がとか、市民でもいろいろな人たちがいるので、その人たちがこれをどう解釈するかというのを逆に見込んでおかないと、さっきの具体的な絵面に落とし込むときに、それに対してそれぞれがどのように調整したり、あるいは取り組んだりするのかということ、話を話していけないと思うので、もしかしたら事例の整理の中で、皆さんがどういう立場でどういう人がどのように関わるのかみたいなことを整理する必要がまずあるかなと思ったのが1点です。

私は前回のときに立ち話で話したのですが、これまでの都市デザインの50年で、横浜は都市デザインの先鋭的な都市なので、知っている人は知っているという言い方はちょっとあれですけども、この業界では有名なわけです。例えば金沢シーサイドタウンなどに入っていると、あそこは都市デザインを頑張った住宅地なのですが、住民の人は知りません。そうなってくると、新たな都市デザインというものを目指した先に、それを誰に伝えるか、これを今、誰に言いたいのかという話だと思うのです。市民一般にというのはもちろん当然なのですが、もっと言うと、私は次世代に言うべきだと思っていて、次世代にとって自分事になれるかというのを読み込んだときに、その辺が弱いなと思っています。なぜかという、例えば、私は何度も言っているのですが、「子育て世代」という表現をすると保護者だけなのです。「子育て」というと子供と子育て世代の親がセットになっていく表現だったりするし、今、子ども家庭庁が動き出していて、国の国交省とかほかの部局もそれに順応するような形で「子ども・子育て」とか「子ども」というキーワードが入ってきます。今のこの内容の中に、具体的に言うと学童期の子供とか、中高生みたいな子が自分事になり得るかということ、大人がやってくれていることみたいな、そんな解釈になるかなと思っていたので、逆に彼らの生活圏の中

でこれがどのように、彼らの生活とか暮らしの中に都市デザインというものがどのように落とし込まれるのかということを考えていったときの言い方だったり、その表現が欲しいなというのが欲張りなのですがあります。なので、簡単に言うと「子育て」と言わないで、社会背景のところもケアだけでなく「子育て」と言ったほうが多分いいだろうと思います。あとは、例えば意義の「育む」のところも「育み、次世代に引き継ぐ」みたいな表現もあるかもしれないし、言い方としてはすごくありがちなのですが、少しそのエッセンスが欲しいなと思いました。

あとは具体的などころで、「環境共生」というキーワードで、木質化、建築物の緑化、水辺の活用と。これは多分全部、広場、公園、いわゆる公共空間のことを指していると思いますが、例えば子供たちの学校の中でのピオトープづくりだったり、それに関連した周辺の人たちと川との一体な環境学習農園の動きだったり、横浜が特徴的にそういうものを学校の内外で活動していたりするというのも、あなたたちがやっていることは都市デザインのここのんだよねというふうに教育者が、具体的に言えば教育委員会とか子ども青少年局とかも都市デザインに関心を持って、自分たちの施策のほうにも落とし込んでもらえるようにこちら側が寄り添っていくのもありだと思っているので、その辺がもう少し組み込めるところはエッセンス的に文言をちりばめられるのではないかと考えて聞いておりました。以上です。

(国吉部会長)

たくさんご提言とご質問等ありましたけれども、いずれにしても今回の新たな都市デザインは誰が進めるのか、誰に対してのメッセージとしてつくるのか、誰にやってもらいたいのか、自分たち行政だけでやるとは思っておりませんが、実際はどう考えているかも含めて、その辺がもう少し伝わるような部分が欲しいということと、子育ての表現の問題も、次の時代を考えると、もうちょっと子供たちに対して子育てというくりだけではない言い方もあるのではないかという話と。環境共生なんかも含めて、金沢シーサイドタウンなんかも含めて既に動いてきたもの、つまりこれも歴史資産かもしれないませんが、学校教育も含めて子供たちも知っていただいて、それをさらに次の時代に展開することも踏まえた展開が必要ではないかというご提言だったと思います。事務局から何かご意見はありますか。

(土師係長)

誰の、誰向けのメッセージなのかということにつきましては、都市デザインは都市デザイン室だけでやっているわけでも、横浜市だけでやっているわけでもありませんので、様々な主体で取り組むべきものと認識しております。それをいかに誘発して一つの目的に向かって進んでいくためには、まず、横浜市としてこのようにあるべきだということを打ち出したいというのが、今回のあり方検討のご説明になっております。なので、横浜市の考え方を打ち出して、それを受け止めてくださった企業の方々、市民の方々が共に取り組んでくださるということを進めていきたいと思っております。ご指摘いただいたように、受け止め側がずっとそれが理解できて取組に反映できるかどうかという観点については、もっともっと工夫が要るかなと認識しております。

(国吉部会長)

50年の歴史があるというのですが、スタートの頃はどちらかというと行政が音頭を取って、地域とか民間にどんどん意見をぶつけて引っ張ってきたみたいなどころがあるけれども、これからについては多分違うと思います。その辺の今後の都市デザインのあり方の中で進め方も変わっていくんだというようなことは、どこかで早めに入れておく。行政もちゃんと自分たちのスタンスを眺めていくのですが、地域の方々、市民、あるいは企業の方々にも共感してもらって一緒に進めていくということをもう少し強く最初のほうでうたっておくのも必要かもしれません。真田委員、どうぞ。

(真田委員)

7つの取組姿勢そのものについては特に意見がないというか、よく考えられて、時代に合わせて変更してあるなと思いました。ただ、前にも多分言ったと思いますが、これを都市計画マスタープランに反映させることを考えたときに、それに対するコメントというか、具体的なやり方が非常に少ないなという印象があります。本日の説明内容のところにある説明でも、「調整の上、エッセンスを都市計画マスタープラン全体構想へ反映していく」と書いてあって、そのエッセンスというのが何なのかがよく分からなかったです。あとは、後ろのほうにある都市計画マスタープランにおける位置づけでも、いろいろなものの中に都市空間のデザインがあり、都市計画マスタープランの下にあるような感じに書いてあると思いますが、例えばその前の具体的取組のところと言うと、水辺の活用だったり、歴史的建造物を活用することだったり、デザインで何とかなる話ではないところが実は結構あります。もう少し言うと、古いビルをどうするかという話のときにも、都市計画というか、民間の活動だ

から制御できないんだみたいなことをよく言われていて、でも、景観という側面では確かに民間のものに対して言えないけれども、都市計画だと容積率や用途でかなりコントロールできているわけなので、都市計画のマスタープランに反映させないと都市デザインができないところは大きいにあるのではないかと考えています。なので、「エッセンスを」と最初のところに書いてあるわけですが、エッセンスというのは自分たちでできる話をマスタープランに入れてもらおうとするのか、自分たちのやりたいことを実現するために、その上位で決めておかなければいけないことを入れてもらおうとするのか、どういう姿勢なのかということが非常に重要になってくるので、そのあたり、もう少し具体的にしていってほしいのではないかと思います。

(国吉部会長)

実は私もそこは質問しようと思っていたところです。都市計画マスタープランということで言うと、各区のいろいろな場所に、具体的にここでどういうことを行うとかいうことで表現するのかなと思いますし、具体的な地名でなくても、駅周辺とか、区役所周辺とか、川周辺とか、そういう空間的なものに対して何か行うことになるのかなみたいな感じがあります。一方で、子供とか子育て世代に魅力的な環境を整えるという、そういった活動の舞台として何かをつくるというのは都市マスの中でどのように表現されていくのかがちょっとイメージできないところがあって、その辺はどのようにお考えなのかという感じがしましたので、もしありましたら。

(光田書記)

都市計画マスタープランでは、資料23ページの左を見ていただくと、経済、にぎわい、暮らし、安全安心、環境ということで、横浜市がこれからやっていく都市づくりそのもの、機能の話と言い換えられるかもしれませんが、それについて議論して方向性を示しています。その中の実現手段として、都市空間のデザイン、デジタル技術の活用、土地利用制度の戦略的な活用、持続可能な都市経営、多様な主体との連携とあります。今ここで議論していることは、多様な主体との連携に書いてあることと重複してしまっていて、左のテーマを実現するための手段として、先ほどの市民や企業、団体などいろいろな方とやっていくということも、都市空間のデザインとは別に多様な主体との連携というところで議論はしています。「都市空間のデザイン」というのは、左のテーマを具体的に実現するときに、どうしたら横浜らしく具体的に見せていけるのかということに特化して、「都市デザイン」というよりは、分かりやすく「都市空間のデザイン」ということで、市民に伝わりやすい用語にしたスタンスが横浜市の中にはあります。

例えば経済のほうでは、都市マスのほうの議論では、関連する事項としては、歴史的建造物や水辺空間、公園など、柔軟な利活用とか歩きたくなるまちづくり、創造・出会いの場となる環境整備をしていくことが横浜の都心部においても重要なのではないかなというような打ち出しもありますが、それを実現していくときに都市空間はどうあるべきか、どういう方がそこで活動し参加したくなるような空間ができるのかということの具体の調整、具体的な都市空間で実現していくことをやっていくというのがこれからの都市デザインの役割かなと考えています。一方で、例えば安全安心につきましても、先ほど既成市街地の話が出ていましたが、横浜は木造密集住宅市街地も多いので、これからは地域特性を踏まえた事前復興だとか、市民とともに将来のプランみたいなものをつくる取組も都市整備局でやっております。そういったところに、実際の都市空間としてどういう未来図を描いて、どういう方々と手をつないで実現していくのかということを調整していく手法は都市デザインだと考えています。

言葉の使い方とても難しいので、都市計画マスタープランに掲載するときは、実際の施策が空間に落ちるところの調整をしていくという打ち出しで今、資料23・24ページを出しています。最終的にどう載るのが心配ということで真田先生からもご意見を頂きましたが、あと2回、政策検討部会をやっていくことになります。次々回の政策検討部会では、都市マスの中にどういうエッセンスで載せるのかということをお示しできると考えています。なので、今回はどういうエッセンスを載せるべきかという議論をしていただいて、次々回で最終の掲載の議論も一緒にしていただければいいかなと考えています。すみません。資料があまりない中で、口頭で失礼します。

(国吉部会長)

資料23ページを見せてもらえますか。私の感じでは、都市マスの中に「都市空間のデザイン」みたいな言葉が入ってこなくていいと思うのです。それは、どこかでインデックスか何かで説明してやってもいいけれども、にぎわいを活発化する地域のデザインの強化とか、この場所においてはにぎわいづくりを行いますとか、あるいは安全安心の視点からのまちづくりを強化しますみたいな、その言葉がいいかどうかは分かりませんが、そのぐらいの感じの文言が地域にプロットされていて、それ

を複合したものもあって、安全安心と暮らしが連携したようなとか。それは別のところで、都市デザインのキーワードで、こういったものを複合した地域の空間デザインを推進しますみたいなことが別途書いてあって、実際に市民が見るときは、もう少し市民が察知しやすいような言葉でくくった、地域再生みたいなのでプロットしていけば非常に理解してもらいやすいかなと。「都市空間のデザイン」みたいな言葉で言うとかちょっと分かりにくいかなという感じがあって、その辺はやり方があるかなという感じがしました。その辺のくくり方と、何らかの感じで表現はするのだろうけれどもということ、それぞれの場所についてももう少し具体的に、先ほど言った、都市計画はもっと空間的なもので、広場とこういうものをここでは組み合わせるとか、そういうことが場所ごとにそれぞれ出てきてもいいのですが、何か大きな抽象的な言葉でくくったものがどんどん都市デザインの用語として入ってくるみたいな、そういう手法を検討されてはどうかという感じがしました。私の言い方もちょっと抽象的かもしれませんが、真田委員からの意見も踏まえて検討してください。

あともう一つ私からですが、地域のいろいろなことをやっていく中で、横浜の都市デザインというのは、人と人とのコミュニケーションの場を増やすとかそういうことをやってきたのですが、今流で言うと交流を深めるみたいなことがあって、あるいは観光とかいきなり言わないで交流人口を増やすとか、そういう言葉が今、一般的、社会的には非常に活発になっているわけです。大都市ではなくて地方再生なんかにおいても、交流人口を増やすことによって街の活力をつくっていく。広場づくりとかそういうものは、交流人口を増やすようなことでもあると思います。これは都心部だけではなくて、一般既成市街地あるいは郊外部においてもあるのではないかと考えていて、それは都心部だけでなく、郊外部なりの交流人口というのは受け入れるのか受け入れないのかみたいな話もあって、いろいろな人が交流することによって老朽化、高齢化していく地域も活発になっていくような視点もあるので、交流人口みたいなことに着目してもいいのかなと。それから、横浜だけがうまくいけばいいという話ではないと思います。全国に地方再生で頑張らなければならないと思っている都市もあるので、例えば都心部では観光客も含めた交流あるいは他都市との交流、開港5都市会議とかそういった交流があるわけですが、郊外部の地域においても住宅地の新たな魅力、交流の仕方みたいなものを促進しなくていいのかとか。例えばどこかのある区、緑区と全国のどこかの都市とが連携して交流するような、そういう日本のいろいろな都市との交流人口とか、住宅地同士の交流とか、そういうのも含めて全国につながるような策を持ってもいいのかなという感じもちょっとして、その辺はもし可能性があったらご検討いただきたいと思いました。何かありますか。

(桂係長)

都市デザイン室の桂です。まさしくおっしゃっているとおりかなと思っています。横浜の都市デザインは観光をメインにして街を美しくしていこうというようなスタートはしていないと考えていて、横浜の人たちが横浜の人らしく暮らしていくためにはどうしていったらいいかということ積み上げていった結果、対外的な交流人口を生み出していったという順番なのかなという理解でいます。ですので、これから新しいまちづくりを打ち出していくときに、他都市に最も参考にしてもらいやすいという意味でも、既成市街地や郊外住宅地と呼ばれているような住宅地をより魅力的にしていくという先進的な事例ができれば、波及的にいろいろなところにそういったものを参考にしてもらえるかもしれないという野心みたいなものがあったりします。それが多分、横浜市内でも多くの人たちの生活をより豊かにしていくことにつながり、ひいてはそれが結果的に、都心部で起きたように、郊外部においても交流人口を増やしていくことにつながるのかなと思って、今回、大きな打ち出しとして「地域のアイデンティティを磨く」という打ち出しをさせていただいたというような形です。

(国吉部会長)

分かりました。郊外区、既成市街地のあり方については、都市整備局だけでなく全市を挙げて、市全体を通じていろいろな側面からやっております。そういう中で、もう既に他都市との交流とか、交流人口を増やすとか、そういう話は入っているかもしれませんが、その辺は企業活動を活発化させるとか、そういう意味でも重要なこと。その辺も含めてご検討いただければと思います。

一通り、各委員さんから質問あるいはご意見・ご提言いただきまして、ありがとうございました。鴨下委員、お願いします。どうぞ。

(鴨下委員)

国際の視点が入っていなかったのですが、横浜でそれはすごく意外でした。ということで、国際の視点をなぜ入れなかったのか。素人だと、横浜はやはり国際都市にしたいのかなと思っていたのですが、それがなかったのか、どのようにお考えなのかなと思いました。

(国吉部会長)

私の感じだと、多分、当然入っていると。つまり、50年ずっとそれをやってきたということで、これから打ち上げることで新たなものにウエートを置いて書いたと思うのですが、それは全く無視しているわけではなくて、国際というよりもインターナショナルも含めた交流といいますか、開港都市でもあるので、もともとその伝統は引き継ぐという意味で、その辺が見えないと言われると、やはり初めての人はそのように見えてしまうのです。既に50年のことを知っている人は当然だと思っているのですが、その辺をどうするかも含めて、鴨下委員のような意見が市民から出てくることを覚悟して、ちょっと工夫したほうがいいということです。

(鴨下委員)

夏にポケモンのイベントがありました。外国の方がすごく来ていて、そこのみならずみらいの郵便局とかでも外国人の方が数珠つなぎで、グッズを買って送るみたい。だから、こういう世界的なイベントができる都市なのですから、今後、世界的なイベントなども誘致して国際都市になったらすごくすてきななと思いました。

(国吉部会長)

ありがとうございます。というご意見でございました。ほかにございませんでしょうか。三輪委員。

(三輪委員)

先ほど国吉部会長から、今までの都市デザインが割と画一的というか、つくることに特化してきたのが、少し複合的になっているみたいなことをどこかで入れたほうがいいというお話があったと思いますが、多分、社会背景のところに入れるのがいいのではないかと思います。未来会議でもすごく多領域になっているとか、都市デザインを多領域で捉えなければいけないとか、あるいは少し分野を超えた連携がないと、前回の政策検討部会で野原先生もおっしゃっていたと思うのですが、ここに「都市空間のデザイン」と書いてしまうと、そこにフォーカスが当たってしまって、都市デザインはそこしかやらなくていいんじゃない？というふうになるのではないかという危惧みたいなものもあります。これは多分、都市マスのほうで書かれているのでこちらで書けないのかもしれませんが、全体に都市デザイン室が絡んでいかなければいけないじゃないかという話になろうとしているときに、少し元に戻っていくような印象がこれにあるのです。逆に言うと先ほどの、都市デザインは今までよりも別の領域とも連携していかないとこれからの都市デザインは成立しないという話は、どちらかというと社会背景のところへ書き込みながら、そうすれば、いろいろなところとの調整、書き込みができるのではないかと思ったので、7つの取組み姿勢の⑤なのか①なのか分かりませんが、そこにはしっかり入れ込むのがよろしいのではないかと思います。

(国吉部会長)

これまでもフィジカルだけをやってきたわけではなくて、商店街活動とかそういうところも一部あったりしていますが、多くはフィジカルなところをメインに、そこだけではなくて、地域の伝統とか、地域の歴史資産を守る方々の活動とか、できるだけそういういろいろなソフトの部分の活動を踏まえてやっていたわけです。その辺を複合的にやってきたということは書きつつも、もっとこういうところまで踏み込まなければ駄目だという感じのことをどこかで書いておいた上でこういうふうにするのが三輪委員の助言だったと思いますので、その辺も語っておかないと初めての方は分からないということかもしれないですね。

(光田書記)

本日に合わなかったのですが、分かりやすく打ち出すとすれば、資料23ページ、左の5つの「賑わい」とか「暮らし」「安全安心」「環境」みたいな新しい領域とどうコラボレーションして実際どういうことをやっていきたいのかということ、もうちょっとかみ砕いてご説明できるようにならないとなかなか分かりづらいものになってしまうかなと思いますので、次回に向けて調整していきたいと思っています。

(国吉部会長)

そろそろまとめに行きたいと思いますが、よろしいでしょうか。真田委員、よろしいでしょうか。

(真田委員)

大丈夫です。

(国吉部会長)

今日はいろいろなご意見がありました。具体的なこともいろいろな視点から出てきましたし、全ての人が過去の都市デザインを知っているわけではないので、これが初めてという人もいます。それから

すると、こんなことやらないの？みたいな感じで、それはもっともなことだと思います。そういうことが変に誤解を生まないようにすることも大事なと思いますし、あと、一番面白かったのは、誰に対してのメッセージなのか、誰に担ってもらいたいのか。それも複合的になってくるのでしょうけれども、そのメッセージを伝えるシステムみたいな、学校教育なんかも通じてということも当然あると思いますが、そういうところまで踏み込んだご意見もあったと思います。たくさんありましたが、それぞれ有意義な意見だったと思いますので、その辺を踏まえた再構築を次回までにしていただき、必要に応じて途中で各委員にまたお送りするなりして次回に臨むようにしていただければと思います。そういうことで、第1議題についてはここで収めたいと思います。よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

(2) 創造的イルミネーション事業令和4年度のイベント実施報告について (報告)

(光田書記)

続きまして、議事(2)に入ります。議事(2)は、創造的イルミネーション事業令和4年度のイベント実施報告についてでございます。詳細につきましては、担当課であるにぎわいスポーツ文化局創造都市推進課よりご説明させていただきます。

議事2について、担当課より説明を行った。

(国吉部会長)

事務局から説明、報告ではありますが、委員の皆様から質問等があれば、よろしくお願いいたします。真田委員さん、よろしくお願いします。

(真田委員)

来場者・非来場者の声のeアンケートの結果で、例えばQ10を見てみると、「横浜の夜景がさらに魅力的になる」というのは、行っても行かなくてもそう思うかなという感じがしますが、Q11だと「飲食や物販などお店がイベント後も利用できること」というのは、低めではありますけれども、実際に行っている人だとよりそう思うのではないかと思ったりするので、来場者と非来場者を分けて結果を表示することはできますか。

(阪井)

すみません。最後のところが聞き取れなくて、来場者・非来場者を分けて……

(真田委員)

分けて結果を示すことはできるのですかという。分けたほうが分析しやすいのかなと思ったのですが。

(阪井)

eアンケートは非来場者の声ということでアンケートを取っておりまして、来場者アンケートと全く同じ質問をしたわけではないので、そこを分けてというのが今できない状況になっております。

(真田委員)

そうなんですか。eアンケートに答えている人は、全員行ったことがないということですか。

(阪井)

そこは質問として挙げていないので分かりません。

(真田委員)

なるほど。実際にeアンケートだと多分、両方に聞けると思うので、行ったことがある人の回答なのかどうかは分けたほうが、質問の活用の仕方とかに反映できるのかなと思いました。以上です。

(阪井)

分かりました。今後、インターネットとかで取るときには、参加されましたか、されませんでしたかというのを確認した上で取ればと思います。

(国吉部会長)

山家委員、どうぞ。

(山家委員)

今のアンケートは、最初に、行きましたか行きませんでしたかというのを入れると確かにクリアになるなと思いました。

アンケート結果の来場者のアンケートについてのまとめが、新港中央広場はそろそろ新しい展開がという結論でしたが、新港中央広場は光のイルミネーションのイベントで、そこに入り込んだりする

形のものでよね。だとすると、それをもって港の夜景の魅力がと言われると、体験型で楽しかったかもしれないけれども、港の夜景としてはどうかというふうにつける人もいるかなと思いました。あと、Q15についても横ばいというお話でしたが、若干良くはなっているので、そこまで考えなくても、新港中央広場も夜のにぎわいに貢献する、あるいはイルミネーションを楽しむというところでは評価してもいいのかなと、この結果を見る限りは思いました。

(阪井)

ありがとうございます。大さん橋のほうが恐らく街全体が広く見えるので、その演出の良さが伝わるのかなと思いますが、新港中央広場も全体として数字としては悪くはないというのはありがたいと思います。

(山家委員)

先ほどの議題で子育て世代の話が出ましたが、行って見てきれいだねというだけではなくて、体験型のものであるのが人に来てもらうにはとてもいいかなと思いました。

(阪井)

ありがとうございます。

(国吉部会長)

三輪委員。

(三輪委員)

今、先生方がおっしゃっていたアンケートは、ちゃんと活用できるような取り方をされたほうがいいような気がします。e アンケートのほうは、行ったことがあるとか、あるいは過去のことを言う人もいますので、今年行っているのか、その前に行っているのかによって評価がちょっと変わってくるし、何回も行っている人もいるかもしれないし、その辺は母集団の設定のためには最初のところで聞く内容かなと思いました。それが1点です。

それから、私は学会の関係で、実はヨルノヨの調査をされている大学の研究報告とかを目にすることが多いです。創造都市でほかにもそういうイベントをやっているところの一つとしてヨルノヨだったり、そういうものを見ている場合があって、横浜市として今回報告というか把握していることはとても大事なのですが、外から捉えている文献とかもあり、結構目立つ事業として、全国的にも捉えられている場合がありますので、そういう既往の論文というか報告みたいなものも恐らくあるような気がします。その中でも、例えば参加者だけでなく出展者に聞いていたり、そういう調査を勝手にやってくれているという意味では、いい意味でも悪い意味でも参考にすべき案件だと思いますので、ぜひそういうものも活用されたいかがかなと思いました。具体的には日本建築学会で投稿が出ていた記憶があり、あと、都市計画学会もあったかもしれません。

(国吉部会長)

その辺で、このアンケート結果とは違うようなニュアンスは。

(三輪委員)

いや、そんなにしっかり見ていないししっかり覚えていないのですみません。ただ、違うニュアンスとしては、出展者だったり、質問の聞き方も少し違いますので、あくまでも参考程度にしかならないとは思いますが、その辺もぜひ活用されるといいなと思いました。

(国吉部会長)

ほかの委員、ございますか。私からは、ヨルノヨはヨルノヨとして一定の定着をしているとは思いますが、それ以外の期間の夜景についてどう思うか、あるいは今のままでいいとか、現在の夜景はこういうことにウエートを置いてやっているということは多少説明されて、歴史的建造物やランドマークみたいな建物の上部とか、そういうものを中心に光の演出なんかを工夫していたりするけれども、ヨルノヨという年末から年始にかけてのイベント以外についてはどう評価するかみたいなこともちょっと聞いてみたいなのがあります。何かの機会があったら、あれはあれでいいとか、あそこはもう少し張りや足りないとか、そういうものもあるかもしれないし、あるいはそれを見て回るようなツアーみたいなものとか、その辺についてはどう感じるかとか、その辺にもうちょっと踏み込む機会があったら、ヨルノヨだけでなく、1年間全体を見てどう思うかみたいな、そういう話もぜひ頂ければと思います。何かありますか。

(土師係長)

都市デザインや景観づくりの中のe アンケートの取り方として、今頂いたご指摘を踏まえて質問項目を考えていきたいと思っています。

(国吉部会長)

分かりました。よろしく願いいたします。では、にぎわいスポーツ文化局と連携してぜひやってください。どうもありがとうございます。それでは、議事（２）については理解させていただきましたので、了解ということで収めたいと思います。どうもありがとうございました。

(３) 創造的イルミネーション事業令和５年度のイベント開催について（報告）

(国吉部会長)

続きまして、議事（３）に移りたいと思います。創造的イルミネーション事業令和５年度のイベント開催について、こちらも報告ですが、よろしく願います。

(光田書記)

議事（３）につきましては、創造的イルミネーション事業の令和５年度のイベント開催についてです。昨年度審議いただいたご指摘も踏まえた内容の見直しも含めて、令和５年度の実施内容をご報告するものです。詳細につきましては、担当課のにぎわいスポーツ文化局創造都市推進課よりご説明させていただきます。

議事３について、担当課より説明を行った。

(国吉部会長)

今年度の事業についての説明があったと思います。委員の皆様から質問等があれば、ぜひお願いいたします。

(光田書記)

部会長、すみません。途中ですが、三輪委員におかれましては所用によりここで退席されます。

(国吉部会長)

欠席委員から何かございますか。

(光田書記)

本件については、本日ご欠席の委員からご意見は特にございませでした。

(国吉部会長)

それでは、各委員から、もし質問等がありましたらよろしく願います。山下公園のプロジェクトは今年が初めてですか。石井幹子さんのものは昨年もやりましたか。

(塩月係長)

石井幹子さんの演出は実施しておりません。昨年は、先ほどの動画でもお見せしたとおり、こちらの事業のイベントの中で、プロジェクションマッピング等をお祭り広場で行っただけです。

(国吉部会長)

石井幹子さんのものは今年が初めて。

(塩月係長)

はい。そうです。

(国吉部会長)

これは、山下公園通り会が主催ですか。

(塩月係長)

はい。そうです。

(国吉部会長)

大西委員、よろしいでしょうか。

(大西委員)

先ほども期間や何かのご説明がありましたが、一般の広報としてはどういうもので出しているのでしょうか。というのは、私の周辺はたまたま認識の少ない人が多かったようで、夜、ちょっと行こうよとか、そういう話が出なかったのです。

(塩月係長)

昨年度のことですか。

(大西委員)

はい。

(塩月係長)

広報がまだ足りなかったのだと認識しておりますが、昨年度は10月の後半に市長会見等で記者会見

し、その後、市と実行委員会と両方で記者発表しつつ、いろいろなメディアやSNSとかで公表していくことはしていました。あとは、駅にポスターを貼らせていただいたり、サイネージで提示したりしていたのですが、今年も一応11月1日に記者発表し、大々的に宣伝していこうと思っているところで、電車の中のサイネージやポスターといったものは継続してやっていく予定です。

(大西委員)

そうですね。もう一点だけ伺いたいのは、開催予定の現場周辺の掲示板で、この期間はここでやっていますとか、SNSなんかでチェックしていれば当然出てくるのでしょうかけれども、仕事にしろ、散歩にしろ、来週から始まるんだねとか、ぶらぶら歩いているときに目に入るというのも結構大きいのではないかと思います。

(塩月係長)

おっしゃるとおりだと思いますので、広報のほうと連携して、もうちょっと地元的な広報を積極的にやっていけるように取り組んでいきたいと思っています。

(大西委員)

よろしくをお願いします。

(国吉部会長)

ほかにございませんでしょうか。非常に盛りだくさんなので、これを体験しようとするとな晩では済まないかなと。だから、ぜひ3日間ぐらいかけてご覧くださいぐらいの広報をすると宿泊客も増えるかなと。お勧めコースとか、1日目はこことか、そういうモデルプランなんかをつくって、コンベンションビューローなんかと連携してそういうPRもしてはどうかと思います。

(塩月係長)

お勧め見学ルート等、幾つか掲示したりして、積極的にそういうアピールをしていきたいと思いません。

(国吉部会長)

あと、将来的には、今、関内なんかでグリーンスローモビリティというのを、市庁舎跡地のプロジェクトなんかであのグループが実験的に関内の活性化のために展開していきたいというのがあって、そういうゆっくり動くモビリティみたいなもので、特別抽選に当たった高齢者の人だけグリーンスローモビリティみたいなものでゆっくりこのルートを回るとか。若い元気な人は暗いところでも行けるけれども、高齢者はちょっと危ないなみたいな感じもあるので、ゆっくりグリーンスローモビリティみたいなもので当たった人だけ回すとか、そんなことも面白いのではないかと思ったりしました。

(塩月係長)

ありがとうございます。検討の一つとさせていただきます。

(国吉部会長)

都心再生課なんかと連携するといいかもかもしれません。ちょっと私からアイデアとして、来年度でもいいですが、そういうのが将来あってもいいかなと。

(塩月係長)

都市整備局とも連携していろいろ取り組んでいきたいと思っています。

(国吉部会長)

ほかにございませんでしょうか。これも報告事項で、皆さんぜひ体験なさっていただければと思います。ぜひお願いします。

それでは、議事(3)については報告ですが、了承したといいますか、内容については問題ないと思っておりますし、ぜひ元気に進めていただきたいと思います。以上で終わりたいと思います。事務局から何かございますでしょうか。

(光田書記)

本日は活発なご議論ありがとうございました。議事につきまして簡単に確認させていただきます。

議事(1)の新たな都市デザインに関しましては、本日、理念や取組姿勢の内容につきまして、プラスしていくべき視点を様々頂きました。また、誰がどのように取り組んでいくのか、受け手を踏まえた表現をすべきとの意見も頂きました。次回の政策検討部会に向けまして、部会の資料に反映していくこととなりました。

議事(2)の報告につきましては、事後アンケートの評価の方法、取り方の工夫についてご意見を頂きましたので、今後の参考とさせていただきます。

議事(3)につきましては、昨年度を踏まえた広報の方法についてご意見を頂きました。今年度、積極的なアピールをしていくということで、事務局のほうで考えたいと思っております。ありがとう

	<p>ございました。</p> <p>なお、本日の議事録の詳細につきましては、部会長の確認を得た上で閲覧に供することとさせていただきます。</p> <p>(国吉部会長)</p> <p>それでは、本日の政策検討部会を終わりたいと思います。ご協力どうもありがとうございました。</p> <p>閉会</p>
資 料	<p>次第、委員名簿</p> <p>資料1 新たな都市デザインあり方検討（審議）</p> <p>資料2 創造的イルミネーション事業令和4年度のイベント実施報告について（報告）</p> <p>資料3 創造的イルミネーション事業令和5年度のイベント開催について（報告）</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事録については、部会長が確認する。 ・次回開催の日程等は、別途個別に日程調整する。